右一巻三條實隆入道逍遥院尭空真跡也依于此巻
書写畢

公頼

右以濃田侯本校合畢

往哥合　永正元年正月二日　元儀判後日加判者詞

一番

左

今朝ぞ春日の海のうらに賀の浦波の春や立つらん

右

あるとてあらぬ春ぞとひとり風吹たる浦の浪の
右方ハ名所ゆゑ詞ともすなはちかの国の浦なり
かれ人麻呂の歌に神代の昔より海をうるはむ
ふるくより人の住ける所方ハ云古の名所なり
乃ち人麻呂ハ住吉の社に奉ひとり

雪ふる時なれども
世かきこゝ時ら淡山手合の例よ但てゝ
左仁清ゝ和ゝ
武十番の手合ら初春仁北世小そむける賓客
ゝもゝ知ゝ仁ゝ仁ゝ
わゝ仁ゝ
対時ゝなゝ
おゝ仁ゝ時ゝ
独ゝ時ら毎ゝ
ゝ老ゝ後ゝ

綱敷ゝ
ゝ
ゝ
物ゝ
色乃仁武の
時ら又ゝ
門ゝ
乃名世小ゝ
時ら
れ名ゝ

かはる思侍るも未につきて風呂のところとなれ
人のあらそひし此風呂もことく後悔せしむる
尚結構に思ひ給ふるみ打たゝきくちさゝと
むと右は相ひかへて侍るは立春の京気に承れ
花しる興ある殺寒に侍り一番は左をの
まけよ定侍る事も先例あるへきにつされ
右のちらめ此雅宴にさふらひて勝負の神にも
うちよりても侍りけしに御作者の氏なりせまよ
おほく侍るむある御ことくさの信作の人をそ
稀にや侍らん此老法師も守りきと求むるか

またあまりあしき祢とふき負を定むかましく此度は前に
身にいり侍る旅談のち作者はけといふかも
侍せらるゝく件の作者を風呂にふへり
まいかれまさ数とやや侍る例也右勝ちり定
め侍る無きたまり

二番

左

春立とふるかもやさいかなる岸もすると契しはやなる旅

右

節分にそけてことしくれる夜こそたちかへる春と思ひつらむ

右方申云尾ゝすてゝよ給しく首尾つゝ
ひとゝあるきこゝろを侍るを理をり技名ゝの仕方
うゝ侍まく侍ゝ侍ゝはなるゝ余ゝ陳云牡
奇にゝ為紫式風を用侍る也
尤ゝ拾遺集乃巻ゝのこゝろ詞そのまゝに
ゝあゝゝのゝ記もこゝろ為みてみ侍ると思ゝ
ゝ乃ゝ侍ゝ宣姿ゝ侍ゝゝゝ節ゝゝ百
鬼夜行とゝ拾ゝ侍ゝの古物ゝゝまり
ゝゝゝとゝゝ故ゝ身ゝ乃ゝ生をゝけくゝを
ゝ拾とゝゝくゝよゝあゝゝ記侍ゝゝとゝゝゝ

野宮殿ゝ分の夜ゝ内をゝ踏侍ゝ御車ゝ
前ゝ乃ゝまくゝ侍ゝゝ拾ゝ侍ゝゝゝをゝゝ
みゝゝ侍ゝゝゝゝ百鬼夜行の顕形ゝ侍ゝ
事ゝゝゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

三番

左

国立公文書館
National Archives of Japan

四礼とあるひとの人のこと所にあるとこの所にはいかなる所

右

今はあるべきことなれども我ものと酒うまれ断酒をこの所

右手もなくなくなくなりきこえ一方

ものとなりこめ給ひぬ

尤欲ち彼西行上人のあること聞れとよこの給

ひしこの心ばせ世濁に染たる

僻事なりなるべき酒の所酒こそ

一物にはなりこれと餓鬼の断食と中変

まくなるべきこの源うすやとこの給へ

上人の法力にこそまかせたまひしかとも給はせしかとも

四番

左

後茶ちてうち持く寒の所にはいかなる所にそなれ

右

乃智はたとあるかうに四人とと山はたとこの所

六方ち云寒のまうなきこと所なと四一方ある

秋小給ひ代寒乃とえの河秋の寄もなく給

とは年陳云寒達法師寄よるけとこのこと

出ちくれぬ寒芝今いあるちとなりへ出ぬ

しるべと侍りし秋よりのち新後撰に寂蓮法師の
山かぜにつきもてゆくかのわたりくれのあきこそ
なけれ心なりや陳玄仁卿の
世三天梵天帝釈にいたるまで須弥山と云は無名なりなと言
説まことにあらぬ説なる及侍りさるや
左右は雅陳はいとあるべきことを侍り
秋深くてかさなりぬるかとは雪也
是らむ卿はいとあなる実説の伝あるべき
あるべくこそ侍らめ武山家のとき

てとる所えらべる物をすくなくかきあつめ侍りしかは
和歌たとへは嶺高はやく成ぬるかとは
侍るまやとみとあるべくもあらしきこそ
あらぬ説仏可由侍
為義
左
世中八月小袖をかさねきるとあるべきことを
右
立国の年浅くなる紙きぬやはらかなるものなれば
右方の云風俗の他人の歌小袖をうらやむ

風情ありてくさ〳〵の紙を
尤方々の紙きめにつく書賣之物の法師と
このせありてめ〻〻〻見入て侍る
判者も左右なく入手にとり侍べく
いさゝか紙をも侍らず 柳紙きぬ紙つく
書賣之者ども〻〻〻あつまり成和
服部の位次をもそこなひ侍らハいか
と侍るべきもとゝ侍へとも侍る右筆
る新撰歌仕下にかゝはるとも根源侍ら
むしろ侍るあらハ面々共をうか

つさ侍らむと判者の法師乃おりゝ公事問ふハ
いかゝ

六番

尤

思ふ方のもとめ〻〻〻月ハ
右

法師共ハ
尤方々の紙ハ
と義小みるとハ侍るすゝ
おりゝ公事ハ侍ハ右のうち

葛飛と友とす左の勝負は侍るべきよし左右一
一同申之
右御祝の巧先くおくさとそしてくさ毒花つぬ
耳成恨侍る屋さしさ小似琴ものを小耳成
なりにたまて貧福と相侍る変世話より
あらつ侍る事為思ひよを侍るもの形ぶ
小あしす老耳乃相侍なるる人りち
世太の舟にさち侍るとたく侍と左濃物と人
さるるるるる世話数秀逸ものく侍るへしもあと
稲つよ恋慕の思あるく世人くく侍る和とを稲の

底乃上先もあひ侍るる物を此餘事もいと
身小しく侍るく侍るしし衆の名付侍まる
にうち侍るる侍ひ稲より白雪侍るるへ底とるあぬ
外ものるり物世侍稲侍稲乃義おとるさも
ものくぬ源四侍濃よひをるあるるくいりけく
らもるく花蝶るるる侍逸しあるるるる
れしひるる世侍るなる紀義成るるるるあさ侍
しく心るるしく我るる衛花してひく
侍るるる句数よたく紀侍くるる侍るる和
秀手侍物句るるよくるるるぬ撃耳にく

此つるひとつの花めてるを作る所人不運の業業
小松は八中くまくさく再び洗濯せしと
光を作るへ所あるゆをこの方をけ左と教う
りまを陶西くく

七番

左

正月ゆ手廣くく雪花を取り花ひとをとる大根

右

ゆくゆ雪ゆ陶七時京都とさくへ公とひ取り
左手とゆ分難なるよう右方人をのくちく

右方面四の松乃とゆめくれ事を作る
左は大根くるくとつく支流法ゆりてひ
ト柱手に作る面くかくる事北監舞ゆ家の
右作流くも松かく作るへ作とと先者流
口傳乃一流もるくト西くく行の四代ようあり
けをくく山門との風ふうをくくて作ゆ
海を所ありを家るう大根をるくこのくくけると
京堂北まくく矣大なる大根をくうれとこの
をを西て神寶手特流くく人るとやめくく
明嚴をを作をくく作くく面を大根くひ

ある天下無双の名人なれと言慢しそらすは
ころは此雪を無戒なりし大めせかすなりしを
いさこそ今歌をかるひ草にしくもるをける
よの人のさしとめしを筆を文をかためかきり
侍ることをとす后とあえんらひとゝ申とう筆路皮
備りとしなる太宰府に往川乃参籠顔九
重此なりの霊にふれめらしの山のたけしき
まちくひなりつゝあ侍りし後ふかなきことく
小さくせいてと見　初瀬も折ふ
高迭と無根齋晶里は浅かのの人あらはるみえまし

こゝろあるまも心とてもる方や備りてむ賞鉢めされ
にいそうく無出備わりとをの武ことを清ふかく雲
返しても是すてあるくは数無備述ハ右ハ
大おもんとを見ちしても右歌勝なりしと見
申侍なり

八番

左

下紅葉も便よ福をといるへしも我なれ人もとぬ夜おいは心なし

右

我宿もるよ門越けりなかむやとをはなをしるひくも世小もるるは

右方中宮御方ハ紅梅ニ白梅ハ
なをさしもあらわかれ早るる梅ゆゑ
中宮御方ハ首尾ひとなへらを
ゆうあるをかしきのとひく紅を
俗の風儀ゆゑ
左ハ紅梅ハ白梅
ら見所あるゆゑ
詠ハ梅ハ
すくるのとも世
ハ梅ハ

九番

左

ひく梅ハ
右

歌ハ元ハ
右方中宮御方ハ梅の
しゆんゆゑ
ハ
ハ
ハ
ハ

なを云語にてのひく花のあるくみと侍る梅
咲色のあるは彩色也又春こそ梅と侍る人
きよらに白ゝとく
雪はまくに梅の色あるは紅梅
あるは白侍る花ひらこと侍る紅梅
ほひ人ちこそ花味なれ侍る優
数のもとゝ色の梅を花とく詞と云
とゝひ花人秀逸又ゝ侍る右方の事
より作者をこゝろのうつくしきと雅ゝ
か紅なをは先方を花ゝ侍ゝ

をかるこ風味をとゝやうくとん中侍る

十番

左

三世仏奇得ゝくゝ紅月のうつまを家や

右

禁戒ゝや色を衣とおもるゝ花を面にうつ人もうな
右方ゝ云三世の仏の金剛経の要文を面
しをくしかゝや家始ゝ方ゝ不吉なるゝ
陳云往方は祝方不吉ゝ用捨まくゝあ
ゝうにあるゝ雅云過云現在示来

奇瀑の観念をいだかれ向上の禅まうらて
なりひうしやくしやくかやと禅ふ事二ハなり
生死ものうかものうらいく陳ぶもをめしる
ものとハ此の句に落く生死厭離の見性
をくらまし偽りなるの眼なりハ二手指を
あたへ偽りなるをふ為
危哉技二世心不可得事書記録のうへ小見と
偽りの安徒八今更ものうへに及ものれ
野庵乃老　此偽りとハ何の心
ものうへ為ひ偽りなるなり

法華経を経ものうち成くふ禅味を
以偽り嘲ることをもひとをてむせくものと
やとなり偽りくものうへ偽りなるの
禁戒乃屋なる衣代と為ものとハ
にくくものをなをひしわり志を
もてハ破戒乃法をもり凡性の古徳ものう
いくくの身をなるくく偽りなる判者も衣裟
乃うへハ一味行の分に偽りもくくもの
ひくくに世書よをもてハ偽りをもて功徳を
なるくくひて屋なれ衣まつくものひて

りや伝ら人我宗門のおそれ給悪徒者とも
海と歩とをあらくあらくとも志ゝく行合
乃法は酒を飲て魚肉を食ふ所
伝らぬもの雲おなりつゝ人数のか
他の板見を使ゆるされまゝ物なり

常盤姫物語

大和国はこと紀ゝ伝ゝ人ゝ有ゝと云ゝ樂ゝ業
物ゝ語ゝの色ゝ彩ゝ所ゝ須の義よりくゝ也て情ゝ
あまりこゝとけもとゝ物ゝ伝ゝ人ゝ
なれ者と年ゝ法ゝ行ゝ人ゝ所ゝ也やう道ゝ
ゝ小和歌ゝ乃ゝ歌ゝ乃ゝ来ゝ也ゝ悲ゝ也ゝ業ゝ編ゝ戸ゝ乃
明ゝ也ゝ不ゝ法ゝ也ゝ羅ゝ也ゝ者ゝ也ゝ高ゝ
くゝ月ゝ也ゝ伝ゝ我ゝ法ゝ也ゝ
世ゝ法ゝ也ゝ也ゝ也ゝ多ゝ也ゝ口ゝ也ゝ白ゝ尊ゝ
ゝ歌ゝ者ゝ我ゝ法ゝ伝ゝ二ゝ門ゝ乃ゝ陽ゝ乃ゝ蟠ゝ